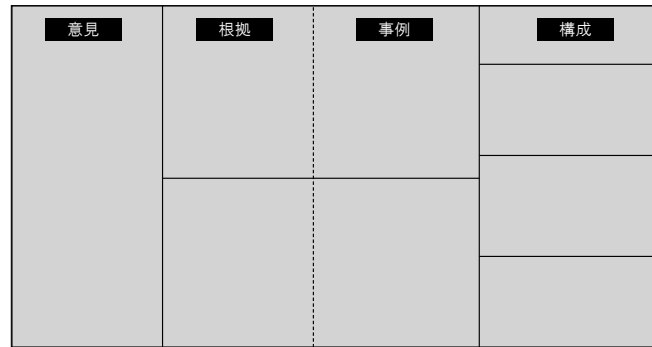




# 論理コミュニケーション トータルロジックス特別版

The Logical Communication as Total Logics

(下巻)



論理的な文章の設計図

## 文部科学省全国高等学校教育改革研究協議会 発表特別号



慶應義塾大学  
SFC研究所  
プラットフォーム  
デザインラボラトリ



福岡県立  
東筑高等学校



これからの中学生・高校生は、論述を学ばないといけない。  
だから、地域を代表する公立高校の先生と  
2003年から論理コミュニケーションを研究する大学の先生が  
論述力習得のためのテキストを創りました。

特別無償版 ※  
(学校及び自習利用)

※著者の権限において、学校の授業での実施及び、児童・生徒・学生の自習での利用に関してご自由に印刷して利用可能です。  
学習塾等での利用に関しては、発行者までご確認ください。  
※本特別号は慶應義塾大学SFC研究所プラットフォームデザインラボラトリと福岡県立東筑高校のトータルロジックス授業の高度化に向けた取り組みをまとめた研究報告書です。

©慶應義塾大学SFC研究所プラットフォームデザインラボラトリ 2018

## 本書に全国の大学の先生から応援を頂きました

いま、社会のあらゆる場面で、自分の考えを論理的に構築して、人に分かるように表現できる人材が求められている。10余年の研究をもとに開発された、「論理コミュニケーション力」を高める授業用テキスト。

慶應義塾大学教授 國領二郎

国民的な課題ともいえる論理的記述力を伸ばす方法は、明確な一つの答えがあるわけではない。しかし、効果が期待できるモデルを提示することはできよう。スーパーサイエンスハイスクール事業は、国の先進的、試行的な取組を基にモデルを創出する場である。論理的記述力の育成に向け、東筑高等学校で行っている「論理コミュニケーション」の取組は、確実に学習者の主体的な学びを引き出し、モチベーションを向上させ、論理的記述力が高まることを学習者も指導者も実感できる具体的かつ有効なモデルであると言える。

東洋大学教授 (元国立教育政策研究所総括研究官) 後藤顕一

いまの高等教育で必要な学びである論理コミュニケーションを一部の限られた人ではなく、全ての人へ届けることを10年余の研究をもとに実現したテキストである。

文部科学省大臣補佐官 東京大学・慶應義塾大学教授 鈴木寛

論理的に主張する技術は、古代ギリシャに遡る。ある土地が自分の所有であることを法廷で主張するために、rhetoric (説得力を持って話し書くこと)が始まったという。西洋では一つの学問分野となり、高校や大学では、rhetorical persuasion, public speaking 等が授業で教えられている。それに対して日本の教育では、それらの授業に対応するものが不十分であったが、本書はまさにその役目を司るといえる。丁寧で分かりやすい記述に加え、具体例や実際に書く練習等が数多くあり、この一冊をマスターすれば論理的に日本語で文章が書ける力が身につく。そして、その力は日本語を話すときにも使ってほしい。

三重大学教育学部英語科特任教授 早瀬光秋

本書は、「論理コミュニケーション力」、すなわち、「自ら考え、それを論理的に表現して相手に説得的に伝える力」を養うことを目的とし、そのために必要な思考様式や記述方法等について具体的訓練の手法を提示したものである。今後、技術革新によってあらゆる社会活動が再定義され、アイデアとテクノロジーを用いて新たな価値を生み出すことが人間の中心的役割となるならば、そこにおいてまず人間に求められるのは、「自分の考えを表現し、その実現のために、それを人に理解させる能力」であるはずである。これから訪れる劇的な変化の中、時代を先導する人材の育成のためには、まさに本書のような実践の手引が必要となつてこよう。

弘前大学教育学部専任講師 蒔田純

根拠に基づき、事例をひきながら話すこと。それができるとできないとでは、自分の考えを他人に伝えようとするときに、大きな差となって表れるはずだ。この本には、そんな「論理コミュニケーション」を行うために、高校生諸君が身につけて欲しい「論理」が書かれている。

早稲田大学情報生産システム研究科長 教授 吉江修

※御名前 50 音順



## ■ 中学生・高校生に必要な論述力を学ぶには、お金はかかりません

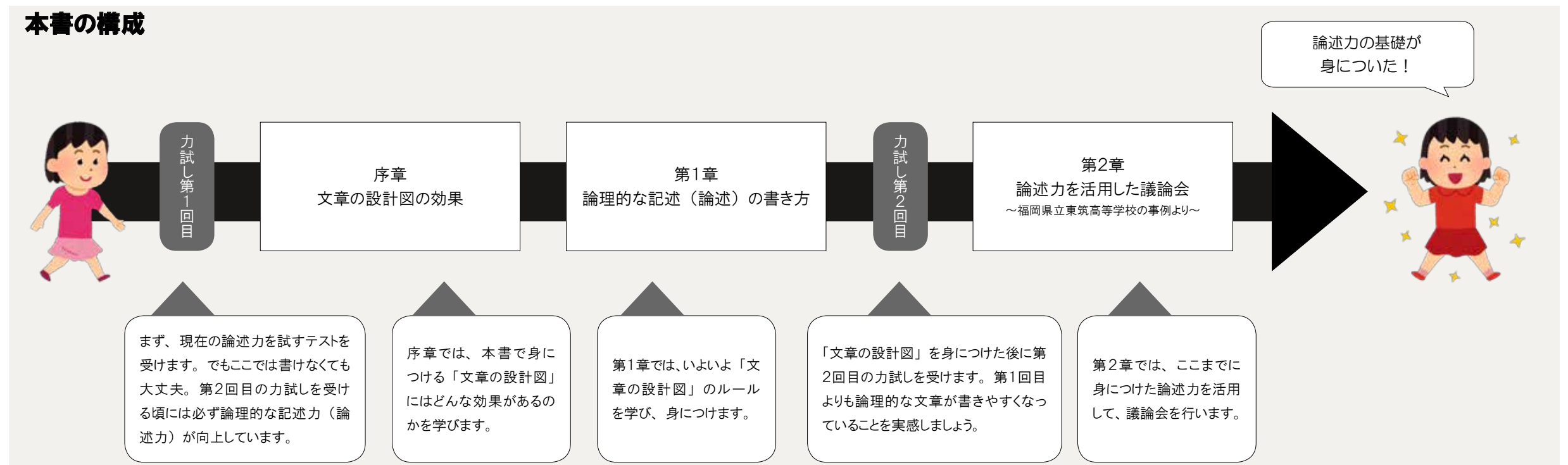
本書は、平成28年度文部科学省全国高等学校教育改革研究協議会において発表され、全国の高校の先生から好評を得た福岡県立東筑高等学校の論述力育成授業「トータルロジックス」を全国の中学校・高校で実践できるように冊子化したものです。本書を支えるのは、人工物としての協働のメカニズムを研究する慶應義塾大学SFC研究所プラットフォームデザインラボラトリが設計した多様な専門家の協働です。具体的には、本書執筆の中心的役割を担った高校の先生と大学の先生に加え、国の公共政策の専門家、IT技術や経営戦略の専門家、国際企業で活躍する専門家など多様な専門家が中学生・高校生の論述力育成という協働に参画しました。特に、本書にも多数引用している『論理コミュニケーション(2011)』と『論理コミュニケーション 第2版(2015)』の著書である仁藤亜里先生(長崎県教育委員会非常勤講師)と齋田有里先生(長崎県教育委員会非常勤講師・大阪薫英女学院中学校高等学校非常勤講師)、また、ほぼ毎日論理コミュニケーションの教壇に立つ上野詩歩先生(長崎南山高等学校非常勤講師)には、多大なる貢献を頂きました。

本書の基礎技術となる「論理コミュニケーションに関する育成・計測技術」には歴史がありません。慶應義塾大学での基礎研究が開始されたのは、国の会議で論理的な記述力(論述力)が必要だと言われ始めた2000年代初頭です。その後、東筑高等学校においては、井上孝志先生が中心となって新しい授業が毎年推進されてきました。そして、現在も日々の授業の中で進化を続けているという点です。

最後に中学生・高校生の皆さん。本書では、論理的な記述力(論述力)の基礎力を身につけることができます。ここで身につける論述力を活用して、中学校・高校や大学や社会の中で、多数派に依存せずに、しかし、社会に受け入れられる形で自らの論を打ち立てていってください。

福岡県立東筑高等学校 学校長 中島 良博  
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任准教授 梅嶋 真樹

### 本書の構成





## 目次

### 【上巻】

力試し第1回目	6
序章 文章の設計図の効果 ～文章の設計図を使うと論理的な記述（論述）ができる理由～	14
第1章 論理的な記述（論述）の書き方 ～記述プロセスを見える化する「文章の設計図」を身につける～	28
力試し第2回目	79

### 【下巻】

第2章 論述力を活用した議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例より～	88
--------------------------------------	----

## 第2章

# 論述力を活用した議論会

### 力試し第1回目

#### 序章

文章の設計図の効果  
～文章の設計図を使うと論理的な記述（論述）  
ができる理由～

#### 第1章

論理的な記述（論述）の書き方  
～記述プロセスを見える化する「文章の設計  
図」を身につける～

### 力試し第2回目

#### 第2章

論述力を活用した議論会  
～福岡県立東筑高等学校の事例より～



## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

論理的なコミュニケーションをすることの楽しみは、自分の発信した内容を他の人に共有してそれが伝わることと、さらにその内容に対して返答が来ることです。他の人からの返答により、自分とは異なるものの見方・考え方に触れ、自分の意見の位置づけがわかったり、自分の考えが改めて強固になったりと変化します。

逆に、表現したものを使って他の人とコミュニケーションしなければ、自分の書いた文章・発言が他の人に伝わるものになっているか否かすら判断できないため、能力が高まりません。

そのため、論理的な記述力（論述力）を高めていくためには、書いた文章を他の人に読んでもらうことや、発表することが重要です。本書内で行った演習も、身近な友達や、学校の先生などに読んでもらい、それを基に議論を行うなど、積極的に共有し対話を行いましょ。

実際に全国で行われている論理コミュニケーションの授業においても、議論会や発表会が取り入れられています。



本章では福岡県立東筑高等学校の例を紹介します。東筑高等学校においては、1年次の3学期に学年全体（320～360名）で議論会を行っています。この時の議論のテーマは「北九州市民はエネルギーマネジメントに参加できるか否か」です。議論会に向けて、授業内で論理的な記述力（論述力）を高め、議論会当日に向け発表するための自分の意見を整理するなど、十分な演習を実施しています。そして、2年次においては、さらに質の高い議論会を行っています。

では、みなさんもこれまでに学んだ論理的な記述力（論述力）を活かして、東筑高等学校が行った議論会に挑戦してみましょう。

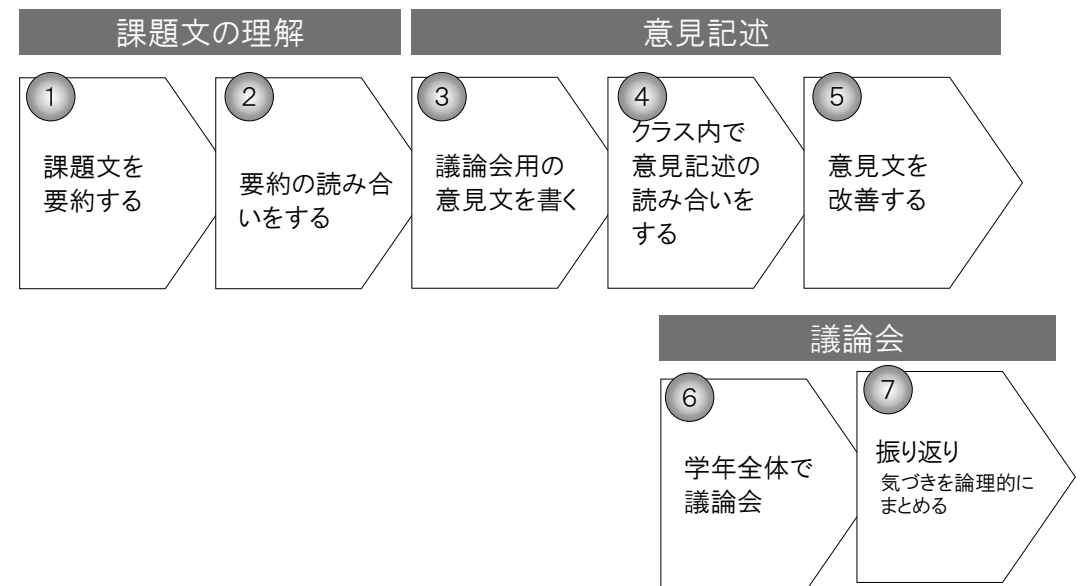
今回挑戦していただく議論テーマは、以下です。このテーマは東筑高等学校の高校2年生（3クラス 108名）が2017年度の授業において、実際に挑戦したものです。

課題文の中で「民主主義に対立するものは民主主義だ」と筆者は述べているが、この対立が起こるのはなぜか。あなたの意見を400～600字で書きなさい。

《参考文献》金子郁容、松岡正剛、下河辺淳（1998）『ボランタリー経済の誕生 自発する経済とコミュニティ』、実業之日本社

議論会までの進め方は以下の通りです。

### 議論会の取り組み方（例）



では、早速次のページから課題文を読んでいきましょう！





## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

今回のテーマは課題文を踏まえて意見記述をすることが前提となっていますので、まずは課題文を理解しましょう。

- 1 課題文を理解するために、要約します。その際、重要だと思うところには線を引き、重要な単語は○で囲みましょう。その上で、次のページに400字以内の要約文を書いてください。

### 【課題文】

いま、民主主義に対立しているのは全体主義ではない。資本主義に対立しているのは社会主義ではない。民主主義に対立しているのは民主主義であり、資本主義に対立しているのは資本主義なのだ。

ホメイニ革命からソ連崩壊にいたる十数年のあいだに、世界にはこうした一筋縄ではいかない複雑な状況が一挙に頭をもたげ、われわれを睥睨し、もてあそんでいる。ハーバード・ビジネススクールを出た MBA (経営管理学修士) や ENA (フランス国立行政学院) 出身のエナルクが得意になって説明するようわかりやすい図式など、どこにも見当たらなくなったのである。

アムステルダム国際ビジネス研究センターは、おもいあまって世界中にアンケートとヒアリングをおこなって「地球上には少なくとも七つの資本主義がある」と指摘せざるをえなかった。フランス総合保険の会長で『資本主義対資本主義』の著者でもあるミシェル・アルベールは、なかでも「アングロサクソン型資本主義」と「ドイツ＝日本型資本主義」の対立が激化していると観察した。『ゼロサム社会』が大ヒットしたのち、一九九六年に『資本主義の未来』を書いた MIT のレスター・サローは、「対立しているのはむしろ民主主義と資本主義である」とさえ書いた。これはジョージ・ブキャナンが民主主義の政治プロセスそのものに財政赤字を膨張させるメカニズムがあると考えたことに一致する。

ビジネスマンや大衆はおおむね直線的な記憶を好み、専門家は適当な XY 軸によるグラフ座標的な未来を期待するものである。本書を読む読者もきっとそんな「予想」を期待しているにちがいない。

が、われわれが見るかぎり、事態はとっくに直線コースからも、どんな XY 座標からもはずれてしまっている。どこかの国がそのほかの国を支配することもできないし、ひとつの理論が別の理論を制圧することも不可能である。行政管理社会と経済民主主義は一九八〇年代からずっと対立したままだし、リベラリズムとポピュリズムさえ融和していない。そしていまや民主主義と資本主義が鎬を削り合っている。未来予測のためのポートフォリオなどどこにもないのである。

おまけに安易に対策をこころがけることがかえって悪循環をつくるということも、だんだんわかってきた。二十世紀の歴史はそのことをいやというほど教えてくれている。金融政策を緩

和して投機をうながしたとしても、インフレがおこれば抑制策をとらざるをえず、それによって失業者があふればやむなく雇用政策をとることになるのだが、それはたいていうまくいかず、いっそうの社会的不安をもたらす。そして雇用が不安定であれば次のインフレが確実に待っている。そこでしかたなく金利を引き上げる。けれども、高い金利が経済を活性化させるわけではないのだから、そこでまた調整がはじまる。その悪循環なのだ。

このような悪循環がおこるのは、観察者が社会経済の動向をあまりに線形的に見すぎているせいでもある。実際の社会経済はもっと非線形な動きをしている。そのように見方を変える提案も出てきた。

そこで、勇躍登場してきたのが、たとえば「複雑系の科学」や「カオスの科学」や「共進化仮説」というものである。MIT のポール・クルーグマンは近著『自己組織化の経済学』の中で複雑系モデルを経済学に適応している。

複雑系とは部分の総和では全体の特徴の予測がつかないシステムのことで、構造的に複雑なシステムの成長を一様に観察できないという特徴がある。このような複雑系を相手にしたときの分析方法が注目されてきた。が、残念ながら複雑なシステムに関する予測の科学が波間にゆらぐ経済や社会の動向にあてはまるとしても、それは決して何か対策を指し示すものではない。それに複雑系の科学は初期値に依存して、「誤差」が著しく拡張されるシステムを相手にしているので、たとえこの予測があてはまるとしても、その本質からして非常に不安定なものでしかない。サンタフェ研究所のプライアン・アーサーが言い出した「収穫逡増の法則」にしても、そのままあてはまるのはコンピュータや電子部品関連の産業などに限られている。

つまり、どんな資本主義にもあてはまる対策などないに等しいのだ。お先は真っ暗なのである。いまのところ得策はない。

『ボランティア経済の誕生 自発する経済とコミュニティ』

(金子郁容・松岡正剛・下河辺淳著／実業之日本社、1998、p.14～p.16)

## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

1 課題文を 400 字以内で要約してください。

2 グループを作り、要約した内容を読み合ひましょう。

みなさんが設計図を使って意見や根拠・事例を構成して意見記述をするように、他の人が書く文章にも、意見や根拠・事例があります。文章から設計図が読み解けるようになると、その筆者の意見は何か、それはどのような根拠で支えられているのかを理解しやすくなります。そのために、ここにも設計図を用意しましたので、課題文を要約する際に使ってみてください。




20W x 30L = 600



## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

### ■線引きの例と解答例

課題文の重要な箇所に線を引いた文章と、要約例を紹介します。意見記述に入る前に確認をしましょう。なお、この議論会を実際に行った東筑高等学校では、要約を授業の中で行っています。

#### 線と○をつけた箇所の例

いま、民主主義に対立しているのは全体主義ではない。資本主義に対立しているのは社会主義ではない。民主主義に対立しているのは民主主義であり、資本主義に対立しているのは資本主義なのだ。

ホメイニ革命からソ連崩壊にいたる十数年のあいだに、世界にはこうした一筋縄ではいかない複雑な状況が一挙に頭をもたげ、われわれを睥睨し、もてあそんでいる。ハーバード・ビジネススクールを出た MBA (経営管理学修士) や ENA (フランス国立行政学院) 出身のエナルクが得意になって説明するようわかりやすい図式など、どこにも見当たらなくなったのである。

アムステルダム国際ビジネス研究センターは、おもいあまって世界中にアンケートとヒアリングをおこなって「地球上には少なくとも七つの資本主義がある」と指摘せざるをえなかった。フランス総合保険の会長で『資本主義対資本主義』の著者でもあるミシェル・アルベールは、なかでも「アングロサクソン型資本主義」と「ドイツ＝日本型資本主義」の対立が激化していると観察した。『ゼロサム社会』が大ヒットしたのち、一九九六年に『資本主義の未来』を書いた MIT のレスター・サローは、「対立しているのはむしろ民主主義と資本主義である」とさえ書いた。これはジョージ・ブキャナンが民主主義の政治プロセスそのものに財政赤字を膨張させるメカニズムがあると考えたことに一致する。

ビジネスマンや大衆はおおむね直線的な記憶を好み、専門家は適当な XY 軸によるグラフ座標的な未来を期待するものである。本書を読む読者もきっとそんな「予想」を期待しているにちがいない。

が、われわれが見るかぎり、事態はとっくに直線コースからも、どんな XY 座標からみてもずれてしまっている。どこかの国がそのほかの国を支配することもできないし、ひとつの理論が別の理論を制圧することも不可能である。行政管理社会と経済民主主義は一九八〇年代からずっと対立したままだし、リベラリズムとポピュリズムさえ融和していない。そしていまや民主主義と資本主義が鏝をけずっている。未来予測のためのポートフォリオなどどこにもないのである。

おまけに安易に対策をこうじることがかえって悪循環をつくるということも、だんだんわかってきた。二十世紀の歴史はそのことをいやというほど教えてくれている。金融政策を緩和して投機をうながしたとしても、インフレがおこれば抑制策をとらざるをえず、それによっ

て失業者があふればやむなく雇用政策をとることになるのだが、それはたいていうまくいかず、いっそうの社会的不安をもたらす。そして雇用が不安定であれば次のインフレが確実に待っている。そこでしかたなく金利を引き上げる。けれども、高い金利が経済を活性化させるわけではないのだから、そこでまた調整がはじまる。その悪循環なのだ。

このような悪循環がおこるのは、観察者が社会経済の動向をあまりに線形的に見すぎているせいでもある。実際の社会経済はもっと非線形な動きをしている。そのように見方を変える提案も出てきた。

そこで、勇躍登場してきたのが、たとえば「複雑系の科学」や「カオスの科学」や「共進化仮説」というものである。MIT のポール・クルーグマンは近著『自己組織化の経済学』の中で複雑系モデルを経済学に適用している。

複雑系とは部分の総和では全体の特徴の予測がつかないシステムのことで、構造的に複雑なシステムの成長を一様に観察できないという特徴がある。このような複雑系を相手にしたときの分析方法が注目されてきた。が、残念ながら複雑なシステムに関する予測の科学が波間にゆらぐ経済や社会の動向にあてはまるとしても、それは決して何か対策を指し示すものではない。それに複雑系の科学は初期値に依存して、「誤差」が著しく拡張されるシステムを相手にしているので、たとえこの予測があてはまるとしても、その本質からして非常に不安定なものでしかない。サンタフェ研究所のプライアン・アーサーが言い出した「収穫逡増の法則」にしても、そのままあてはまるのはコンピュータや電子部品関連の産業などに限られている。

つまり、どんな資本主義にもあてはまる対策などないに等しいのだ。お先は真っ暗なのである。今のところ得策はない。

#### 要約例

世界では民主主義対民主主義、資本主義対資本主義といった複雑な状況が生まれている。そして、いまや民主主義と資本主義が鏝をけずっている。そこでは「アングロサクソン型資本主義」と「ドイツ＝日本型資本主義」の対立などと指摘されるように、資本主義が乱立し、しかもどんな資本主義にもあてはまる得策はないのである。

これを解決する、わかりやすい図式などなく、事態は我々の期待する直線的コースや XY 座標からはずれて、未来予測のためのポートフォリオなどどこにもない。

また、実際の社会経済は非線形な動きをしているにも関わらず、観察者が社会経済の動向をあまりに線形的に見過ぎているせいで、安易な対策が悪循環をつくることもわかってきた。

新たな見方としての複雑系モデルの経済学適用も、何か対策を指し示すものではなく、予測もその本質からして非常に不安定なものでしかなく、「収穫逡増の法則」にしても、一部の産業などに限られている。(399 文字)



## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

### ■解説

みなさんは、この文章の核はどこにあると読みましたか。

様々な要約の解答例が見られましたが、多かったのは、この文章の最後にある、「どんな資本主義にもあてはまる対策などないに等しいのだ。お先は真っ暗なのである。いまのところ得策はない。」を筆者の意見としたものでした。そのように要約した人たちの思考過程を推測してみると、まず、課題文の最終段落にこの部分が来ていることがあり、ついで、換言の働きをする接続詞「つまり」があり、それまでのところをまとめて言い換えていて、さらに、繰り返されるキーワードの「資本主義」について、断定的に筆者の事実に基づいた意見が書いてあると思われたからでしょう。ですが、この部分は冒頭の段落で指摘している「資本主義」について触れていても「民主主義」には触れていませんね。この全体の流れから見て一部分のことにしか触れていていません。当然出典の『ボランティア経済の誕生』の一部抜粋ですから、全てにわたって触れているということはないにしても、その点は気になります。

もう一度この文章を見てください。冒頭はどのように始まっていますか。「いま、民主主義に対立しているのは全体主義ではない。資本主義に対立しているのは社会主義ではない。民主主義に對立しているのは民主主義であり、資本主義に對立しているのは資本主義なのだ。」となっています。まず、「いま」と現代の問題であることを明示していますよ。私達の最も関心を寄せる問題は、多くの場合「いま」のことです。例えば、古代を問題にしても、それと比較して現代に生きる我々の在り方に対して疑問なり、問い直しがなされていることが多いことはこれまで多くの文章を読んできて理解しているでしょう。

現代社会にある様々な問題に対して、どのような対処をすべきかを、そこに暮らす市民みなどで考える必要があるのです。ですから、課題文の形を借りてみなさんに提示されているのです。

次に、構文的にみると比較・強調構文とでもいえる「Aではなく、Bである」という構文が見つかります。この構文は前者Aを否定して、後者Bを強く主張するものです。ここでは、普通信じられているように、A = 「民主主義に對立しているのは全体主義」・「資本主義に對立しているのは社会主義」ではないと「A」を強く否定した上で、B = 「民主主義に對立しているのは民主主義」・「資本主義に對立しているのは資本主義」であると「B」を強く主張しています。つまり、この部分こそが筆者の強く読者に訴えたいことだと読み取れます。「つまり」があるから、文章の最終部にあるからという判断で読み取ると誤ってしまいます。筆者の主張は、現代は「民主主義對民主主義、資本主義對資本主義」という大前提となる構図が頭にあり、それに対する処方箋が今のところないと主張しています。

このとき、とても大切なのは、通常は私達の「常識」である「民主主義に對立しているのは全体主義」・「資本主義に對立しているのは社会主義」ではなく、「民主主義に對立しているのは民主主義」・「資本主義に對立しているのは資本主義」と筆者はなぜ主張するのか。そもそも、筆者の言う「民主主義」對「民主主義」とはどのような事態を指しているのか、と文章を読む時に引っかかることなのです。ある大学の先生は文章を「逆なでしながら読む」とそのことを言われまし

た。ペットをなでるのに毛に沿ってなでも何も見えませんが、毛を逆になでると地肌が出てきて、「あ、こんなところに傷があった」と気づきます。さらっと読むと読み落としてしまうことの中に、「ここはどういうこと？」と引っかかり、立ち止まる力こそ重要な読解力なのです。

さて、課題文を読解した上で、いよいよあなたの意見を記述していきましょう。意見記述をする上では二つ注意点があります。

### ①定義をしよう

論を展開するためには、一つ一つの言葉を自分がどのような意味で使っているかを明確にしなければなりません。特に「民主主義」という守備範囲の広い言葉ではそうです。そうしないと、「民主主義」という言葉について書き手と読み手が違った理解をすることがあるからです。今回の場合であれば、例えば「民主主義は、政府を法の支配下に置き、すべての市民が法の下で平等な保護を受けること、そして市民の権利が法制度によって守られることを保障すること」とすれば、「民主主義」と「民主主義」の対立を、市民としての権利を他国から犯されていると市民が感じているために、政府は他国と対立するのである、となります。言葉の定義を明確にすることで、共通理解が進んでいくことになります。

### ②具体的にイメージしよう

「民主主義」と「民主主義」の対立と問われたとき、言葉の概念のまま考えようとしても難しいものです。概念をわかりやすくするためには具体的なものを用いることはよくありますね。事例と呼ばれることが多いのですが、今回の場合では、例えばヨーロッパの難民排斥運動とか、米国とメキシコの間「壁」設立の問題などを思い浮かべることができれば、意見はとてつくりやすくなります。米国とメキシコとの対立であれば、両国とも民主主義国家ですから、この両国が対立していることは、すなわち「民主主義」と「民主主義」の対立とみることができます。また、国同士でなくても一国の中でも考えられますよね。日本国政府と沖縄県の問題、基地問題などが考えられます。政府は辺野古への移設を主張し、沖縄県は県外移設を主張しています。両者とも民主主義に則った行政組織ですから、これもまた「民主主義」と「民主主義」の対立とみることができます。そして、民主主義對民主主義を、個人對個人のことととらえた時に、互いの自由の対立を身近な問題として取り上げてみてほしいのです。事例に経験や観察を書くことを論理コミュニケーションはよく言いますが、学校生活や家庭生活などで、この対立が起こっていることを示すとき、それは説得力のある事例として機能するはずですよ。

上記2点を踏まえた上で、早速意見文を書いてみましょう！

なお、民主主義という言葉の定義の助けとなる資料を以降のページで紹介しますので、必要なのは参考にしましょう。





## ■ 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

### ■ 補足説明

#### 【言葉の定義とは？】

言葉を定義するとは、言葉の意味を明確に説明することです。書き手と読み手で同じ言葉を使っているのにその言葉の意味が異なる場合などには定義が必要になります。言葉を定義することが、大切な言葉の意味を書き手と読み手とで統一するために必要なのです。例えば、国際空港と言うとどのようなイメージを持ちますか？ 海外の都市と航空路線を持つ空港というイメージを持つ方も多いと思います。例えば、福岡県福岡市にある福岡空港。アジアから欧州まで8か国20路線、週の合計で636便（引用：福岡県空港計画課ホームページ）もの海外行きの飛行機（国際便）が発着しています。国際線の専用ターミナルもあります。

では、福岡空港は国際空港か？ 答えは、国際空港ではありません。したがって、福岡空港は、“福岡国際空港”ではありません。それは、国際空港という言葉の定義が決めた結果です。一般的には、空港法という法律が国際空港という言葉をしめます。空港法第4条は、国際空港を「国際航空輸送網又は国内航空輸送網の拠点となる空港」と定義し、成田国際空港、東京国際空港、中部国際空港、関西国際空港、大阪国際空港を例示しています。ちなみに、現在大阪国際空港には国際便は就航していません。

しかし、大学の研究論文では、自分で言葉を定義することができます。空港法は国際空港を「国際航空輸送網又は国内航空輸送網の拠点となる空港」と定義するが、私は、国際空港を「国際線が発着している空港」と定義することができます。言葉の定義をいい加減にしないこと—これは、大学で研究者になる第一歩です。



## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

以下は American Center JAPAN の Web ページに掲載されている民主主義に関する文章です。  
英文と和文両方を載せますので、意見記述の参考にしてください。

### 民主主義の原則 – 概要：民主主義とは何か

「民主主義（デモクラシー）」の語源は、ギリシャ語の「デモス（人民）」である。民主主義国においては、立法者や政府ではなく、国民に主権がある。世界各地のさまざまな民主主義制度には微妙な違いがあるが、民主主義政府を他の形態の政府と区別する一定の原則と慣行が存在する。

- 民主主義とは、市民が直接、もしくは自由選挙で選ばれた代表を通じて、権限を行使し、市民としての義務を遂行する統治形態である。
- 民主主義とは、人間の自由を守る一連の原則と慣行である。つまり、自由を制度化したものと言ってもいい。
- 民主主義は、多数決原理の諸原則と、個人および少数派の権利を組み合わせたものを基盤としている。民主主義国はすべて、多数派の意思を尊重する一方で、個人および少数派集団の基本的な権利を熱心に擁護する。
- 民主主義国は、全権が集中する中央政府を警戒し、政府機能を地方や地域に分散させる。それは、地域レベルの政府・自治体が、市民にとって可能な限り身近で、対応が迅速でなければならないことを理解しているからである。
- 民主主義国は、言論や信教の自由、法の下で平等な保護を受ける権利、そして政治的・経済的・文化的な生活を組織し、これらに全面的に参加する機会などの基本的人権を擁護することが、国の最も重要な機能のひとつであることを理解している。
- 民主主義国は、すべての市民に対して開かれた、自由で公正な選挙を定期的実施する。民主主義における選挙は、独裁者や単一政党の隠れみよとなる見せかけの選挙ではなく、国民の支持を競うための真の競争でなければならない。
- 民主主義は、政府を法の支配下に置き、すべての市民が法の下で平等な保護を受けること、そして市民の権利が法制度によって守られることを保障する。
- 民主主義諸国のあり方は多様であり、それぞれの国の独自の政治・社会・文化生活を反映している。民主主義諸国の基盤は、画一的な慣行ではなく、基本的な諸原則の上に置かれている。
- 民主主義国の市民は、権利を持つだけでなく、政治制度に参加する責任を持つ。その代わりに、その政治制度は市民の権利と自由を保護する。
- 民主主義社会は、寛容と協力と譲歩といった価値を何よりも重視する。民主主義国は、全体的な合意に達するには譲歩が必要であること、また合意達成が常に可能だとは限らないことを認識している。マハトマ・ガンジーはこう述べている。「不寛容は、それ自体が暴力の一形態であり、真の民主主義精神の成長にとって障害となる。」

出典：Bureau of International Information Programs “Principles of Democracy”

### What is Democracy?

Democracy comes from the Greek word, “demos,” meaning people. In democracies, it is the people who hold sovereign power over legislator and government.

Although nuances apply to the world's various democracies, certain principles and practices distinguish democratic government from other forms of government.

- Democracy is government in which power and civic responsibility are exercised by all citizens, directly or through their freely elected representatives.
- Democracy is a set of principles and practices that protect human freedom; it is the institutionalization of freedom.
- Democracy rests upon the principles of majority rule, coupled with individual and minority rights. All democracies, while respecting the will of the majority, zealously protect the fundamental rights of individuals and minority groups.
- Democracies guard against all-powerful central governments and decentralize government to regional and local levels, understanding that local government must be as accessible and responsive to the people as possible.
- Democracies understand that one of their prime functions is to protect such basic human rights as freedom of speech and religion; the right to equal protection under law; and the opportunity to organize and participate fully in the political, economic, and cultural life of society.
- Democracies conduct regular free and fair elections open to all citizens. Elections in a democracy cannot be facades that dictators or a single party hide behind, but authentic competitions for the support of the people.
- Democracy subjects governments to the rule of law and ensures that all citizens receive equal protection under the law and that their rights are protected by the legal system.
- Democracies are diverse, reflecting each nation's unique political, social, and cultural life. Democracies rest upon fundamental principles, not uniform practices.
- Citizens in a democracy not only have rights, they have the responsibility to participate in the political system that, in turn, protects their rights and freedoms.
- Democratic societies are committed to the values of tolerance, cooperation, and compromise. Democracies recognize that reaching consensus requires compromise and that it may not always be attainable. In the words of Mahatma Gandhi, “intolerance is itself a form of violence and an obstacle to the growth of a true democratic spirit.”

出典：Bureau of International Information Programs “Principles of Democracy”



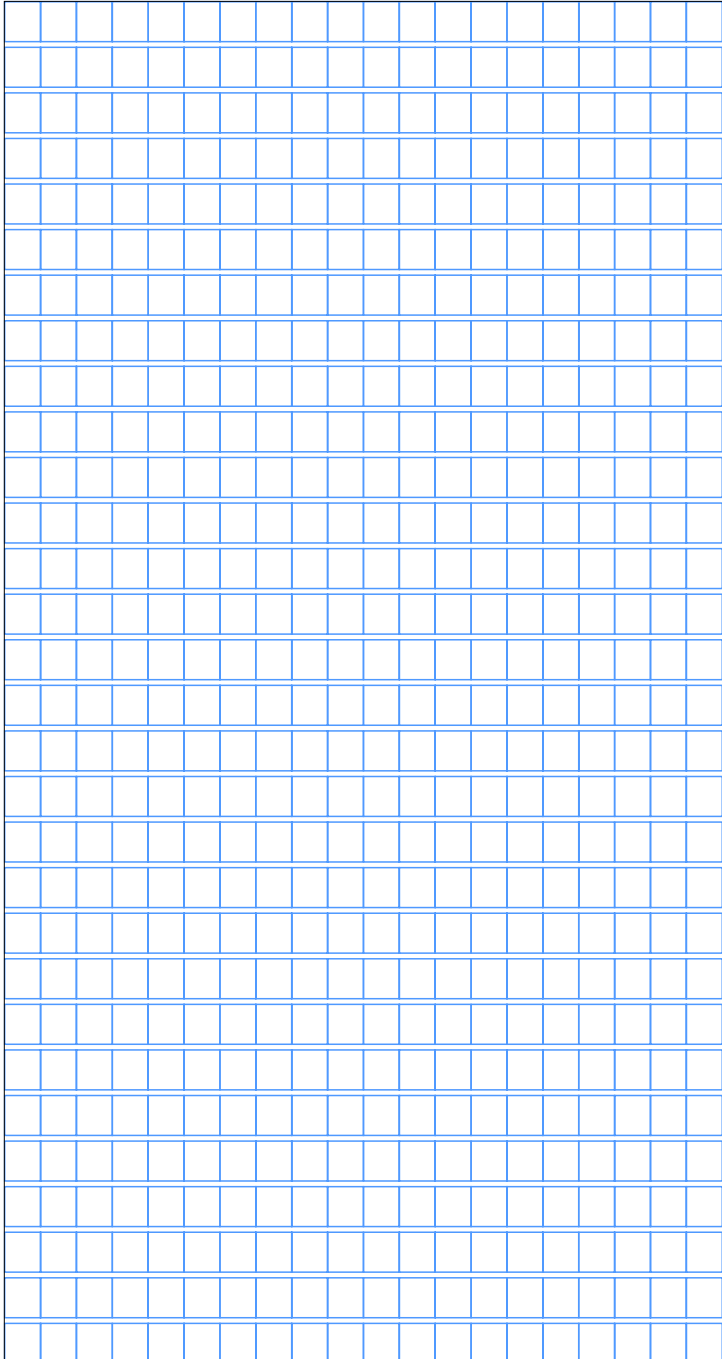
## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

3

議論会で発表する意見文を用意しましょう。

課題文の中で「民主主義に対立するものは民主主義だ」と筆者は述べているが、この対立が起こるのはなぜか。

あなたの意見を 400 ～ 600 字で書きなさい。

20W x 30L = 600

# 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

東筑高等学校で議論会を行った際の、実際の解答例を紹介します。

<p>「民主主義対民主主義」を「国民が持つ権利同士の衝突」と定義する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民主主義では、すべての国民が平等に権利を保障され、その権利を主張できるから</li> <li>同等の権利を互いに主張し合うことができるから</li> <li>世界には様々な民主主義が存在するから</li> </ul>	<p><b>A</b> 資料によれば、「民主主義国は言論や信教の自由、法の下で平等な保護を受ける権利、そして政治的・経済的・文化的な生活を…理解している」とあるから</p> <p><b>B</b> また「民主主義国は、全体的な合意に達するには…認識している」とあるから</p> <p><b>B</b> ↑異なる価値観を持った人同士が民主主義のもとで権利を主張し合ったとしても合意達成が常に可能だとは限らないから</p>	<p>私達は、言論の自由によって何者にも抑圧されず意見を主張することができるし、信教の自由によって信仰対象を自由に選ぶことができる。これらのことから、異なる価値観を持つ人同士が衝突することは少なくない。市民の直接選挙または自由選挙によって選ばれた政治家たちが、民主主義によって保護された権利に基づいて、各々の意見を主張し、言い争っている光景はニュースでよくみられるだろう</p> <p>例えばAさんの自宅の前に新しいBさんの住宅が建てられることになったとする。Bさんの家が建てられることで、日照権が阻害されると予想したAさんは、Bさんに抗議するが、Bさんは住居移転の自由を主張し、両者は対立してしまう。これは、国民が平等に権利を主張できるがゆえに起こる「民主主義対民主主義」の例だといえるだろう</p>	<p>まず、「民主主義対民主主義」を「国民が持つ権利同士の衝突」と定義する。</p> <p>私は「民主主義対民主主義」が起こる原因は、民主主義ではすべての国民が平等に権利を保障され、その権利を主張できることにあると考える。</p> <p>その根拠は大きく分けて二つある。</p>	<p>第1に、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料に～ (例) 私達は～</li> </ul>	<p>第2に、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異なる～ (例) 例えばAさん～</li> </ul>
	<p>・国または人によって幸せの形は違うから</p>	<p>・北朝鮮は核兵器を持つことが幸せだと考えているが、日本はその逆である。二国は互いに民主主義国であるが、激しく対立している</p>			

まず、「民主主義対民主主義」を「国民が持つ権利同士の衝突」と定義する。私は「民主主義対民主主義」が起こる原因は、民主主義ではすべての国民が平等に保障され、その権利を主張できることにあると考える。その根拠は大きく分けて二つある。

第1に、資料によれば、「民主主義国は、言論や信教の自由、法の下で平等な保護を受ける権利、そして政治的・経済的・文化的な生活を組織し、これらに全面的に参加する機会などの基本的人権を擁護することが、国の最も重要な機能のひとつであることを理解している。」とあるからだ。私達は、言論の自由によって何者にも抑圧されず意見を主張することができるし、信教の自由によって信仰対象を自由に選ぶことができる。これらのことから、異なる価値観を持つ人同士が衝突することは少なくない。

第2に、異なる価値観を持った人同士が民主主義のもとで権利を主張し合ったとしても合意達成が常に可能だとは限らないからだ。例えば、Aさんの自宅の前に新しいBさんの住宅が建てられることになったとする。Bさんの家が建てられることで、日照権が阻害されると予想したAさんは、Bさんに抗議するが、Bさんは住居移転の自由を主張し、両者は対立してしまう。これは、国民が平等に権利を主張できるがゆえに起こる「民主主義対民主主義」の例だといえるだろう。

## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

東筑高等学校で議論会を行った際の、実際の解答例を紹介します。

<ul style="list-style-type: none"> <li>民主主義の主権は国民にあるはずなのに、その意見が尊重されていないから</li> </ul> <p>→ここでいう民主主義とは「市民が直接、もしくは自由選挙で選ばれた代表を通じて、権限を行使し、市民としての義務を遂行する統治形態 (Bureau of International Information Programs “Principles of Democracy”)」のこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国民の反対を押し切ってでも政府は意見を通すから</li> <li>国民と政府で問題への捉え方や向き合い方が違うから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的には、沖縄県の米軍基地やオスプレイの問題がある。沖縄県民は、騒音や安全面といった理由で設置を反対しているにも関わらず、政府は意見に応じていない。それは、アメリカとの関係は貿易面において大切であり、国民にとって大切にすべき関係である</li> <li>また、世界でも似たようなことが起こっている。その例として、アメリカのパリ協定の脱退が挙げられる。私はニュースで国民が反対の抗議をしている映像をみた。だが、協定を脱退することで、産業がより活性化されアメリカの産業の発展に貢献されるため、国民のためになっている。このように政府は国民のために動いているにも関わらず、主権者の国民に反対されるのは問題に対する視点が国民と違うからである。よって対立が起こるといえる</li> </ul>	<p>私は「民主主義対民主主義」が起こる原因は、民主主義の主権は国民にあるはずなのに、その意見が尊重されていないからだと考える。</p> <p>ここでいう民主主義とは、「市民が直接、もしくは自由選挙で選ばれた代表を通じて、権限を行使し、市民としての義務を遂行する統治形態 (Bureau of International Information Programs “Principles of Democracy”)」のこととする。その根拠は、以下の通りである。</p> <p>その根拠は、以下の通りである。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>民主主義とは名ばかりでその統治形態が崩れてきているから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国民の意見が反映されるはずなのに逆に政府の行うことを隠すようなことをするから</li> <li>国会で都合が悪くなったら言い訳をするから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「秘密保護法」が成立し、これは国民に何の利益ももたらさないばかりか、政府が何をしているのか教えてもらえないため、民主主義とはいえない</li> <li>言い逃れをするために「聞き覚えがありません」や、「記憶にございません」などを言って、形式的な謝罪しかしていない</li> </ul>	<p>なぜなら、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国民の反対を押し切って意見を通すからだ。</li> <li>国民と政府～ (例) 具体的には～ (例) また、世界～</li> </ul>

私は「民主主義対民主主義」が起こる原因は、民主主義の主権は国民にあるはずなのに、その意見が尊重されていないからだと考える。ここでいう民主主義とは、「市民が直接、もしくは自由選挙で選ばれた代表を通じて、権限を行使し、市民としての義務を遂行する統治形態 (Bureau of International Information Programs “Principles of Democracy”)」のこととする。その根拠は、以下の通りだ。

なぜなら、国民の反対を押し切ってでも政府は意見を通すからである。根拠として国民と政府で問題への捉え方や向き合い方が違うことがあげられる。

具体的には、沖縄県の米軍基地やオスプレイの問題がある。沖縄県民は、騒音や安全面といった理由で設置を反対しているにも関わらず、政府は意見に応じていない。それは、アメリカとの関係は貿易面において大切であり、国民にとって大切にすべき関係であるからだ。

また、世界でも似たようなことが起こっている。その例として、アメリカのパリ協定の脱退が挙げられる。私はニュースで国民が反対の抗議をしている映像をみた。だが、協定を脱退することで、産業がより活性化されアメリカの産業の発展に貢献されるため、国民のためになっている。このように政府は国民のために動いているにも関わらず、主権者の国民に反対されるのは問題に対する視点が国民と違うからである。よって対立が起こるといえる。

20W x 32L = 640(621)





## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

4 クラスの友達が書いた文章を計5枚読んでみましょう。

議論会前にクラスで読み合いをして、自分とは違う意見はどういう根拠で論じられているのかを知りましょう。自分と同じ意見の友達の説得力ある根拠を見つけたら、それを自分の考えにも取り入れましょう。自分とは異なる意見の友達の説得力ある根拠を見つけたら、それに対して自分がどう考えるのかをメモしましょう。そのメモを活かして、自分自身の意見・根拠・事例を再度修正しましょう。

誰の文章か

意見

説得力のある根拠

友達の文章に対して、反論・または補足できる根拠・事例

1



2



3



4



5





## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

5

教室での読み合いを受け、自分の意見文を修正し、より良いものにしましょう。  
課題文の中で「民主主義に対立するものは民主主義だ」と筆者は述べているが、この対立が起こるのはなぜか。  
あなたの意見を 400～600 字で書きなさい。


20W x 30L = 600

## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

6 いよいよ、議論会当日です。これまで準備してきた文章を活用して、より多くの人と意見を交わしましょう。議論会の進め方は以下の通りです。

### 1. 班ごとに議論

まずは周囲の人（3人）と用意してきた意見文を発表し合ひましょう。全員の意見文を聞いた上で、「なぜ民主主義の対立が起こるのか」というテーマで意見を交わしましょう。最後に、自分の意見を改めて整理しましょう。

### 2. 全体での議論

班ごとの討議を活かして、まずはみなさんが事前に用意してきた意見文を発表しましょう。発表者の意見に対して、補足したいことや反論したいことがある場合は挙手をし、意見を述べましょう。



議論を行う上での確認事項があります。下に記した「議論会のオキテ」を確認しましょう。議論を行っている最中も常にこの五つのオキテを意識しましょう。

### 議論会のオキテ

#### 其の一) 議論会の時間は「結論」を出す時間ではないと理解すること

議論会が終わった後モヤモヤした感情が残る場合があるが、その感覚を大事にし、議論会後も考え続けることが重要。

#### 其の二) 多様な意見を受け入れること

一つの「話題(題材)」において、多様な意見があることを確認する場である。そのため、自分とは異なる意見を頭ごなしに否定することは認められない。どのような意見も敬意をもって、論理的に聴く姿勢が重要。

#### 其の三) 多数派・少数派を気にしないこと

多数派に属していなくても、自らの意見を根拠を持って、勇気を持って語ることが重要。その勇気によって、多様な意見がこの場に集積される。多様な意見が生まれる議論会を目指そう。

#### 其の四) 意見が変化することを怖がらないこと

議論を通して、新たな考えが生まれたり、考えが深まったりする経験をしよう。そしてその新たに生まれた考えは、積極的に発表しよう。

#### 其の五) 意見の交換を楽しむこと

何はともあれ、他者との意見の交換を楽しもう！

#### 東筑高等学校における議論会の模様

東筑高等学校においては、3クラス合同（108名）で議論会を実施しました。全体で意見を交わす前に、3人組で意見を共有し、小さく議論会を行ったことで、全体での議論の際にも意見が出やすくなり、多くの子が発表してくれました。

#### 慶應義塾大学 梅嶋先生 (議論会当日に参加)

東筑高等学校の議論会には、慶應義塾大学の梅嶋先生が参加し、以下の主張を展開しました。

完璧と思われる民主主義という制度にも  
課題がたくさんある  
～完璧な制度というのはそもそもない。  
だから君たちが新たに創る～

議論会は、すぐに結論が出るものではありません。そして、今回の議論会のテーマ以外にも、社会にはすぐに結論が出せない様々な課題が存在しています。議論会はそれらを考えるきっかけにしましょう。



## 社会課題をテーマにした議論会 ～福岡県立東筑高等学校の事例を基に～

7

議論会を通してあなたが学んだこと・気づいたことをまとめましょう。  
議論会を通してあなたが学んだことは何ですか？ 400字程度で論理的に記述してください。


20W x 30L = 600

【論理コミュニケーションはこれまで2冊の本を発表しました】

論理コミュニケーションを本格的に学びたい方は、こちらの本が参考になります。



『論理コミュニケーション』  
2011年4月25日 第1刷発行  
著者：梅嶋真樹・山中保一・仁藤亜里  
鈴鹿高校テキスト編集委員会  
発行者：坂上弘  
発行所：慶應義塾大学出版会株式会社  
価格：1,800円＋税



『論理コミュニケーション 第2版』  
2015年4月20日 第1刷発行  
著者：梅嶋真樹・仁藤亜里・齋田有里  
発行者：坂上弘  
発行所：慶應義塾大学出版会株式会社  
価格：1,800円＋税

COLUMN ② 設計図のルールに関するよくある質問と回答②

ここでは設計図のルールに関して過去に学生のみなさんから寄せられた質問とそれに対する回答を掲載します。p. 87にもそのほかの質問と回答を掲載しています。確認しましょう。



Q6：根拠をグループ化するとき迷います。例えば、根拠①②③があり、①は②と③どちらにも似ている場合はどうすれば良いですか。

①と②を同じグループにするか、①と③を同じグループにするか、①②③すべてを同じグループにするかはあなた次第です。読み手に伝わりやすいと思うようにグループ化しましょう。

Q7：根拠をグループ化するとき迷います。例えば、根拠①②は異なることを述べていますが、根拠①②についている事例がそれぞれ似ている場合は、どうすればよいですか。

グループ化はあくまでも根拠をみて判断するものです。根拠によりグループを分けましょう。

Q8：事例がだらだら長くなってしまいます。

どの根拠の事例なのか、根拠のどの言葉を説明しているのかを意識しながら書くようにしましょう。根拠の論点とは異なる事例をだらだら書いても読み手には伝わりません。

Q9：Step4「構成」のところ、似ている根拠を自分なりに言葉でまとめたのですが。

「構成」のところでは、今まで出した根拠・事例の順番を決めたら、そのまま書き写しましょう。根拠がそれぞれ似ているからといって、一つにまとめて書いたりする必要はありません。一つ一つ箇条書きのまま書き写しましょう。

Q10：グループが一つしかできなかったのですが、そういう場合、構成の欄で「根拠は大きく分けて●つある」と書く必要がありますか？ その場合どうやって書いたら良いんですか？

根拠をグループ分けした際に、グループが一つしかない場合は、「根拠は大きく分けて●つある」という文は必要ありません。書くとしたら、「根拠は以下の通りである」という表現がおすすめです。

Q11：文章化のところ、文章を変えたくくなりました。新しい根拠が思い浮かんだからです。

書いていると頭が働くので、内容を変えたい点がよくわかります。その場合は、その場（文章化）で変えると論理が崩れやすいので、必ず設計図のStep2「根拠」や、Step3「事例」に戻って書き直しましょう。その上で、意見・根拠・事例の繋がりを確認してからであれば、変更しても構いません。





## 【東筑高等学校1年次、論理コミュニケーション授業シラバス】

東筑高等学校は、1)学校の先生による対面授業、2)外部の専門の先生（ゲスト）による対面授業、3)学習ビデオによる自主学習の組み合わせで授業「トータルロジックス」が実施されています。尚、学習ビデオは日本論理コミュニケーション技術振興センターから提供を受けています。加えて、5回/年の「力試し（論述力検定）」、2回/年の論理コミュニケーション力検定（マーク式）を行い、文章の設計図の専門家による添削を受け、大学で活用可能な高度な論述力を育てています。その結果として、論理コミュニケーション力を身につけた多くの学生が志望大学に合格しています。



井上孝志先生

回数	授業概要
第1回	力試し：論述力検定(記述式)(学習前論述力測定)
第2回	論理コミュニケーション オリエンテーション
第3回	論理コミュニケーション力検定(マーク式)(学習前論理力測定)
第4回	文章の設計図のルール(前編)
第5回	文章の設計図のルール(後編) 力試し：論述力検定(記述式)
第6～10回	ここまでの振り返り、及び、文章の設計図を用いた論述演習 合計5時間
第11回	力試し：論述式検定(記述式)
第12～18回	文章の設計図を用いた論述演習、及び、大学での論述を意識した特別授業 合計7時間
第19回	力試し：論述式検定(記述式)
第20～27回	ここまでの振り返り、文章の設計図を用いた論述演習、及び、「議論会」に向けて、文章の設計図を用いた論述演習 合計8時間
第28・29回	議論会
第30回	力試し：論述力検定(記述式)(学習後論述力測定)
第31回	論理コミュニケーション力検定(マーク式)(学習後論理力判定)

## 【「論理コミュニケーション」の力試し】

論理コミュニケーションは、大学において必要とされる論述力を全ての中学生・高校生に身につけてもらうために研究開発されました。その最重要の学びが本書で紹介している「文章の設計図」です。

「文章の設計図」を身につけたかどうかは、学生自身で確認することもできますが、学校の先生など、自分以外の第三者に依頼することを強くお勧めします。

これは、学生が書いた文章の設計図とその文章を添削・評価したときのフィードバックシートです。評価項目が細かく分けられ、それぞれに改善のためのコメントがあります。また、採点者から各学生への個別コメントもあり、どこが良かったのか、次への具体的な改善方法などが指摘されています。



なお、本書の著者が参加する一般財団法人 SFCフォーラムが総務省公募のIoT サービス創出支援事業での採択を受け、平成29年度に実施した「高校における学生記述プロセダータ解析を用いた記述力指導事業」では、3回以上/年の「文章の設計図」の添削評価を高校生が受けるのが望ましいことが分かりました。

については、大学の論述力を熟知した専門家による「論理コミュニケーションの力試し(評価や添削)」など「論理コミュニケーション」教育の詳細に関心がある学校は、下記までお問い合わせください。

### ■一般財団法人 SFC フォーラム

一般財団法人 SFCフォーラムは、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (SFC) の理念に基づき、経済界を担う人々と大学スタッフとが時代の要請する新たな「知」の再編成と創造を目指すコミュニケーションの「場」として、SFC開設と同年の1990年に設立されました。その活動内容は、SFCの教育研究の社会還元を目的とした産学連携であり、組織運営は、代表理事を花田光世先生(慶應義塾大学名誉教授)、その他理事や評議員をSFCの教育研究に尽力された多くの先生方が担われています。

〒252-0882神奈川県藤沢市遠藤5322  
 URL: <http://www.sfc-forum.or.jp/index.html>  
 TEL: 0466-49-5271  
 E-mail: [saita@sfc-forum.or.jp](mailto:saita@sfc-forum.or.jp)



## 【論理コミュニケーションの研究の歩み】

■2003年  
・約50社によるアンケートと、10社で結成した研究会により、社会人に必要な能力を定義

■2004年  
・定義化した能力をもとに、アセスメント「collaboyou」を開発。これまでに3バージョン開発

■2005年  
・経済産業省主催の「社会人基礎力」を特定する会議に参加  
・「collaboyou」のWEB化に着手  
・授業の遠隔化に着手※経済産業省から支援

■2006年  
・新規事業と既存事業の2種類の「collaboyou」のバージョンを開発  
・学会発表:情報プラットフォームにおける論理的コミュニケーション能力測定の研究；梅嶋 真樹、杉原亨、武内亜里；第22回日本教育工学会全国大会；日本教育工学会；関西大学；2006/09

■2007年  
・教育プログラムの開発に着手  
・学会発表；論理的コミュニケーション能力と大学受験ランキングの関係性の研究(試論)；梅嶋 真樹杉原亨 武内亜里；日本教育工学会第23回全国大会；日本教育工学会；早稲田大学；2007/09

■2008年  
・大分県日田市において”平成成宜園”プロジェクト発足  
・学会発表:論理的コミュニケーション能力と高校における大学進学実績との関係性の研究(試論)；杉原亨 梅嶋真樹 武内亜里；日本教育工学会第24回全国大会；日本教育工学会；上越教育大学；2008/09  
・学会発表:ビジネススマンと大学生が持つコミュニケーション力の現状に関する研究；梅嶋真樹 杉原亨 武内亜里；日本教育工学会第24回全国大会；日本教育工学会；上越教育大学；2008/09  
・学会発表；地域の特性を活かし高校生の実践力を向上させる教育手法の研究～平成成宜園の事例より～；梅嶋真樹 杉原亨 武内亜里；日本教育工学会第24回全国大会；日本教育工学会；上越教育大学；2008/09

■2009年  
・学会発表；論理的コミュニケーションの効率的学習法に関する実証研究；梅嶋真樹；日本教育工学会第25回全国大会；日本教育工学会；東京大学；2009/09  
・学会発表；論理的コミュニケーション力における主観評価と客観評価の関係性の研究(試論)；杉原亨 梅嶋真樹 武内亜里；日本教育工学会第25回全国大会；日本教育工学会；東京大学；2009/09  
・学会発表；地域の特性を活かし高校生の実践力を向上させる教育手法の研究～平成成宜園の事例より～；梅嶋真樹 杉原亨 武内亜里；日本教育工学会第25回全国大会；日本教育工学会；東京大学；2009/09

■2010年  
・collaboyouLLPの設立 2010/01  
・「論理コミュニケーション」授業の高校での総合学習の時間で実証開始 2010/04  
・アセスメント「collaboyou」の試験項目全マークシート化完了 2010/04  
・学会発表；高等学校新指導要綱に対応した論理的コミュニケーション教育の実証研究；梅嶋真樹；日本教育工学会第26回全国大会；日本教育工学会；金城学院大学；2010/09  
・学会発表:就職活動を控えた大学3年生の論理的コミュニケーション能力に関する研究；杉原亨 梅嶋真樹 武内亜里；日本教育工学会第26回全国大会；日本教育工学会；金城学院大学；2010/09  
・学会発表；高等学校における論理的なコミュニケーション力の育成について；仁藤亜里；日本教育工学会第26回全国大会；日本教育工学会；金城学院大学；2010/09

■2011年  
・学校設定科目「論理コミュニケーション」授業の高校での実証開始(三重)  
・慶應大学出版会からテキスト『論理コミュニケーション』発売  
・長崎県への遠隔授業配信のスタート

・新しい英語教育の研究開発スタート  
・東日本地域での大学における大学生向け就職支援講座開始  
・中部地方での大学における大学生向け就職支援講座開始  
・学会発表；高等学校新指導要綱に対応した論理的コミュニケーション授業への遠隔教育の導入；梅嶋 真樹杉原亨 武内亜里；日本教育工学会第27回全国大会；日本教育工学会；首都大学東京；2011/09  
・学会発表；デジタルペンをを用いた生徒の記述プロセスの分析について；仁藤亜里；日本教育工学会第27回全国大会；日本教育工学会；首都大学東京；20/09

■2012年  
・中高生が話せるようになる英語教育開発開始  
・大阪府立松原高等学校で2日間限定の講演及び校内説明会実施  
・福岡県立東筑高等学校で高校2年生にむけ総合学習の時間の一貫として授業を開始、同時に校内説明会の実施  
・北海道藤女子高等学校と長崎南山高等学校内で教員研修の実施  
・関西24大学の就職関係職員に対する「論理コミュニケーション講師育成講座」実施  
・学会発表；論理コミュニケーション力の主観評価と客観評価の乖離に関する研究；杉原亨、梅嶋真樹；日本教育工学会第28回全国大会；日本教育工学会；長崎大学；2012/09

■2013年  
・全国初、遠隔授業の担当講師として、長崎県教育委員会と非常勤講師契約  
・学校設定科目「論理コミュニケーション」を全国6高校で実施  
・学校設定科目「論理コミュニケーション」担当教員コミュニティ発足  
・アセスメント「collaboyou」の改良版をリリース。測定項目の追加。  
・collaboyou小論文検定のリリース  
・学会発表；就職内定獲得学生のモデル化とコミュニケーション力の比較(試論)；杉原亨、大島嶺、梅嶋真樹；日本教育工学会第29回全国大会；日本教育工学会；秋田大学；2013/09  
・フェンシング日本代表ユースに向けた特別ワークショップ(JOC主催)の実施

■2014年  
・学校設定科目「論理コミュニケーション2」の実施  
・「関西地方での大学における大学生向け就職支援講座開始」

■2015年  
・慶應大学出版会からテキスト『論理コミュニケーション第2版』発売  
・Jcom湘南においてローカル番組「誰でも小論文」を放映開始  
・大阪薫英女学院中学校高等学校で論理コミュニケーション授業を開始  
・長崎県立島原高校にて論理コミュニケーション授業を開始  
・愛媛県愛南町において人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業の一環として、遠隔授業により論理コミュニケーション授業を実施  
・Microsoft Education Day～実証に学ぶ 新たなICT活用の実践と展望～にて、論理コミュニケーションの発表

■2016年  
・全国9校で論理コミュニケーション授業を実施  
・中部地区私学教育研修会の国語部会にて論理コミュニケーションの発表

■2017年  
・全国13校で論理コミュニケーション授業を実施  
・神奈川県エリアにおけるオリンピック・パラリンピック教育を放送を用いた遠隔教育にて実施～スポーツ庁委託事業 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業～にて、論理コミュニケーション授業を実施  
・株式会社三重平安閣で論理コミュニケーションを新入社員研修として実施  
・2017年度MSAT授業実践交流フォーラム特別研究会にて論理コミュニケーション講座の実施  
・高等学校で実現する遠隔授業による新たな学び～高等学校における遠隔授業見学会～において、論理コミュニケーション授業を公開  
・総務省公募のIoTサービス創出支援事業に採択され、「高校における学生の記述プロセスのデータ解析を用いた記述力指導事業」の開始

■2018年  
・「平成29年度遠隔教育サミットin長崎」にて、論理コミュニケーション授業を公開

## 論理コミュニケーション 〔トータルロジックス特別版〕(下巻)

2018年4月 発表

著 者 ― 梅嶋真樹・井上孝志・山中保一・仁藤亜里・齋田有里・上野詩歩

発 行 者 ― 福岡県立東筑高等学校  
慶應義塾大学SFC研究所プラットフォームデザインラボトリー

お 問 合 せ ― 慶應義塾大学SFC研究所プラットフォームデザインラボトリー  
神奈川県藤沢市遠藤5322 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス  
Tel: 0466-49-3557

Email: info@collaboyou.com

http://platform.sfc.keio.ac.jp/

本文デザイン ― 仁藤亜里・齋田有里

論理コミュニケーションについての詳しい取り組みや詳細を知りたい方は以下のウェブページにて、ご覧頂けます。

■日本論理コミュニケーション技術振興センター <http://www.collaboyou.com/>

■慶應義塾大学SFC研究所プラットフォームデザインラボトリー <http://platform.sfc.keio.ac.jp/>

※著者の権限において、学校の授業での実施及び、児童・生徒・学生の自習での利用に関してご自由に印刷して利用可能です。学習塾等での利用に関しては、発行者までご一報ください。

※本特別号は慶應義塾大学SFC研究所プラットフォームデザインラボトリーと福岡県立東筑高校のトータルロジックス授業の高度化に向けた取り組みをまとめた研究報告書です。